※令和３年度以前入学生用

２　地理歴史・公民

学校番号	T2101

令和４年度　地理歴史科

教科	地歴	科目	地理Ａ※	単位数	２	年次	２
使用教科書	高等学校「新地理Ａ」　（帝国書院）						
副教材等	標準高等地図 - 地図で読む現代社会 -						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

地理Ａでは、世界の各地域の特徴・世界各地が結びつきを強める「グローバル化」の様子やその課題について学びます。世界は、交通・通信手段の発達を背景に結びつきを強めたことで、経済・環境・文化などが大きく変化しています。その一方で、各地域は地形や気候などの影響を受けながらそれぞれ独自の特徴も持っています。この２つの動きが結びつきながら、私たちの世界が成立しているのです。その様子や関係を理解することは、現代だけでなく、将来の世界の姿を理解することにつながるでしょう。地理Ａでは、この授業では地図帳などの基本的な見方や知識の定着はもちろん、諸国の様々な地理的、文化的特徴や生活を考察し、多面的なものの見方を養うだけでなく、広い世界で活躍できる「心」を作ることを目指します。評価は出席、課題、定期考査で行います。

２　学習の到達目標

① 学習を通して、世界の各地域の成り立ちや特色を知り、国際社会への理解を深める
② 現代世界の地理的事象を考察し、現代世界の地理的認識を養うと共に、国際社会に主体的に生きる人間としての自覚を養う
③ 世界地理を学習する上で、諸資料を効果的に地理の探求に活用することが出来る

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	・世界の地理に対する関心を高め、主体的に学習に取り組むことが出来る。 ・地理を学ぶ中で、国際社会に生きる当事者としての自覚を持ち、自ら考える態度を身につけている。	世界の地域の特色や諸課題について、歴史的背景をはじめとする様々な角度から考察し、その結果や過程を適切に表現できる。	世界の各地域を理解するために、基本的な地図の読み取り、簡単な統計資料やグラフからの情報の読み取りと活用が出来る	国や地域によって異なる地形や気候、文化、産業などの基本的な知識を身につけている。 ・現代世界の地理的諸課題について地球的視野から理解し、その対策や持続可能な社会の実現について考察する
評価方法	・ノート提出 ・定期考査	・ノート提出 ・定期考査	・ノート提出 ・定期考査	・ノート提出 ・定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学期末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期は実施しない								
後期前半	世界の諸地域の姿と地球的課題	・地球儀や地図からとらえる現代社会 ・人間生活を取り巻く環境 ・世界の諸地域の生活 ・地球的課題と私達	○ ○	○ ○ ○ ○	○	○ ○ ○	a:世界の国や地域に関心を持ち、国際社会に生きる自覚を持って主体的に学習に取り組み、考えることが出来る b:世界の地形、気候、産業、文化、エネルギー資源などについて地理的考察を行い、適切に考えを表現することが出来る c:資料やグラフを適切に読み取り、有用な情報を適切に活用することが出来る d:世界を取り巻く環境、文化、産業などを理解し、知識として定着している	課題 定期考査
後期後半	身近な地域の課題	・身近にあるさまざまな地図 ・日本の自然環境と防災 ・身近な地域の課題と地域調査	○ ○ ○	 ○ ○	○ ○	 ○	a: 地理を学ぶ意義について考え、地理的見方や考え方について関心を持ち、主体的に学習に取り組んでいる。 b:日本国の地理的特性等を踏まえた上で課題を考察し、適切に表現することが出来る c:日本国に関する地理的資料から有用な情報を読み取り活用することが出来る d:日本国の基本的な地理知識が定着すると共に、日本国の変容や実態、地域的特色などを理解する	課題 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。